



名越第一切通し

土木遺産の香 第70回

古都鎌倉の歴史に触れる「切通し」

神奈川県鎌倉市／逗子市



セントラルコンサルタント株式会社／東京事業本部／企画営業部
谷口 史記／TANIGUCHI Fuminori
(会誌編集専門委員)

鎌倉幕府と切通し

1180(承久4)年に鎌倉入りを果たした源頼朝は、その後、宿敵平家を掃討し征夷大将軍の地位についた。そして鎌倉の地で初めてサムライ中心の武家政権を誕生させた。頼朝は鎌倉の道づくりにも力を入れ、平安京の朱雀大路にならったメインストリートとして若宮大路を手掛けたのを皮切りに、南北・東西の幹線道路や放射状の軍事用道路である鎌倉街道等を次々と整備し、武家政権の基礎固めに邁進した。切通しの整備に力が入られたのは頼朝の没後、北条による執権政治が始まって以降であった。切通しとは、山や丘などを掘削して人馬の交通を行えるようにした道である。

今も、鎌倉周辺には数多くの切通しが存在している。その中でも主要な切通しとして、名越・朝比奈・巨福呂坂・亀ヶ谷坂・化粧坂・大仏坂・極楽寺坂の7つがあげられ、「鎌倉七口」として伝えられている。なぜ、鎌倉幕府は切通しを整備したのだろうか。

交通利便性から見た切通しの役割

平家との戦いで劣勢に立たされ房総半島の安房国あわのくにに逃れた頼朝が、再び反旗を翻し数万の兵を率いて鎌倉入りしたのは、1180(承久4)年10月とされている。

当時の記録書として知られる『吾妻鏡』によると、安房国に滞在していた頼朝が鎌倉の地を目指すきっかけとなったのは、有力武将の千葉常胤ちのへつねの「富時の御居所は、させる要害の地にあらず、また御囊跡にあらず、速やかに相模国鎌倉に出でたまふべし。(そんな所に居ないで、もっと要害堅固であなたのゆかりの土地があるではありませんか。早く鎌倉に行きなさい)」との鞭撻だ。そして、頼朝が幕府を開いた鎌倉の地は、南方を海、残りの三方を山で囲まれた陸の孤島で防御に適していたが、交通面では極めて不便であった。そのため、鎌倉における切通しは各方面への交通利便性を向上させるためにつくられたのが大きな目的の一つとして考えられる。鎌倉七口は鎌倉幕府が滅んだ後も、江戸か

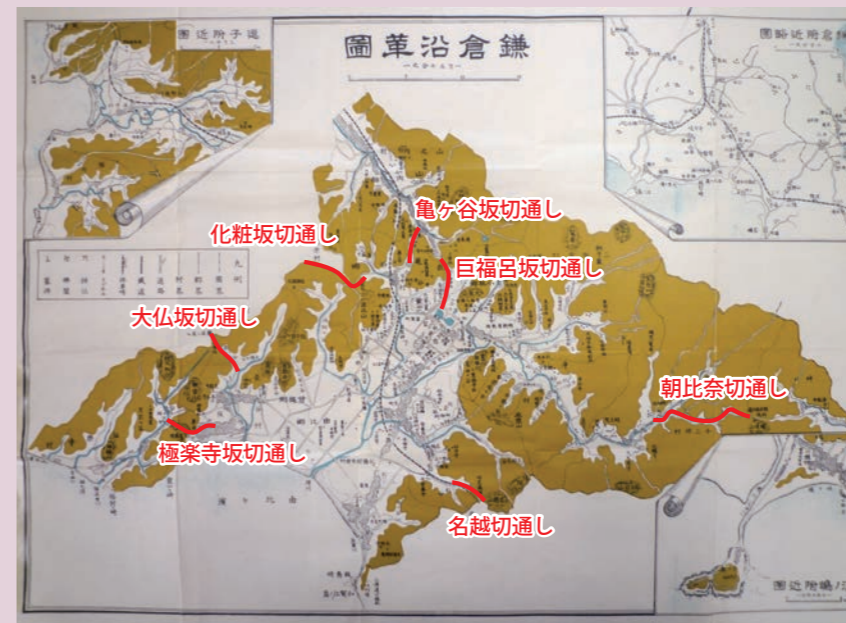


図1 「鎌倉七口」切通し位置図

ら明治時代に至るまで修復を重ねながら頻りに利用され、主要な交通ルートとしてその役割を果たしていた。

切通しの整備に至る過程や工事の状況については、朝比奈切通しに関して、1240(元治1)年に3代目執権である北条泰時が計画し、自ら指揮をとって工事を行ったことが『吾妻鏡』に記されている。これ以外に当時の様子を紐解く記録や資料はほとんど残っておらず、実情はよく分かっていない。

朝比奈切通しは、鎌倉十二所から六浦(現在の横浜市金沢区)に抜ける道である。六浦港からは船で房総へと繋がる主要拠点。その道は物流としても重要であり、六浦で生産された塩のほか、房総や武蔵をはじめ多方面から魚・米・野菜が舟で六浦港に運ばれ、この切通しを通過して鎌倉に持

ち込まれたとされている。

防御機能から見た切通しの役割

切通しの整備が進められた北条執権時代は、天下統一がなされた平穏な時代であったとされているが、未だ京都における朝廷の力も侮ることができなかった。また、近隣の三浦半島では勢力を拡大しつつあった三浦氏との対立関係という問題を抱えていた。

このような中、鎌倉の閉鎖的な地形は外部からの攻撃に対して強力な防御機能を持ち難攻不落の地と称されていた。だが、切通しの整備により鎌倉から外部への交通利便性を向上させることは、逆に防御面での利点を弱め、敵からの攻撃が受け易くなるという諸刃

の剣でもあった。そのため切通しの整備にあたっては様々な防御的な工夫が施された。

一般的に切通しには、人ひとりが通れるほどのわざと狭くした幅の部分があり、直線的ではなく蛇行した道筋が多く見られる。これらは多勢での攻撃に対して、一気に攻めあがられることを防ぐためと考えられている。また、切岸、平場、置石、大風洞・小風洞といった防御のためと思われる施設の痕跡が、切通し内には点在している。

切岸とは、敵の侵入を防ぐために人工的に作られた崖のことで、三浦半島へ通じる名越切通しには敵対する三浦氏の侵入を防ぐため、長さ800m以上にわたって高さ3~10mの崖が尾根沿いに造られ、大切岸と呼ばれ今も残っている。また、置石は路面に埋められた大きな岩であり、これに

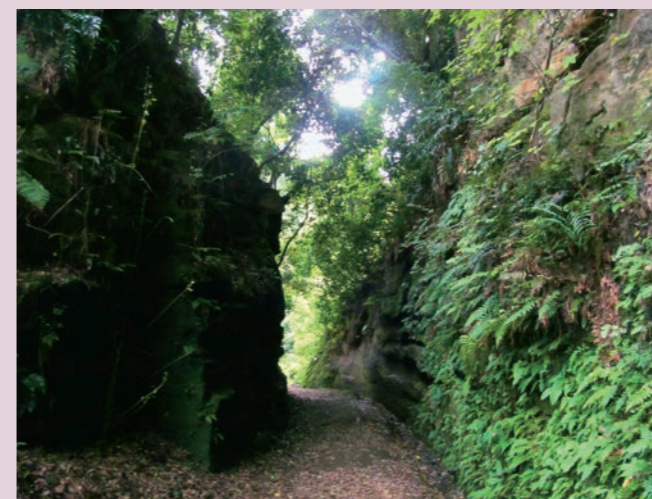


写真1 朝比奈切通し



写真2 名越切通しの大切岸



写真3 名越第三切通しの置石



写真4 名越切通しの発掘調査



写真5 まんだら堂やぐら群

より攻めあがる敵の人馬を立往生させるためのもので、開けた場所から急に両岩壁を迫り出させて道幅を狭くしている大風洞や小風洞も、同様に敵を足止めするために設けられた。さらに、このような施設周辺の崖上に見られる平場は、敵を待ち伏せするための平らな場所であり、立往生した敵の軍勢を崖上から弓矢で攻撃した。

名越切通しの発掘調査

切通しについては前述の通り資料が少なく、かつ専門的な調査もあまり進んでいない。未だ謎に包まれた部分も多いが、現在逗子市によって管理されている名越切通しに関しては、幾度となく専門的な発掘調査が実施されてきている。この名越切通しは逗子を抜け三浦半島へと通ずる道であり、途中の横須賀走水や久里浜から船で房総半島へ渡り、安房や上総へと北上する古東海道ともいわれている。1883(明治16)年に県道名越トンネルが完成し、1889(明治22)年に国鉄横須賀線が開通するまでは主要な道路として

利用されていた。

名越切通しの発掘調査は、1966(昭和41)年に国の史跡指定を受けたのをきっかけに、切通しのほか「まんだら堂やぐら群」や「大切岸」等の保存方法を検討するため、逗子市教育委員会が主体となって行われた。その後、史跡整備に活かすことを目的とした考古学的な調査として実施されている。「やぐら」とは、崖に四角い横穴を掘り、内部に石塔を建てるなどして納骨・供養するための施設で、「まんだら堂やぐら群」は150以上の「やぐら」が1カ所に集まっている。保存状態も良く貴重な史跡となっている。

これまでの発掘調査からは、現在の切通し地表面から下には何層にも重なった道路修復跡とみられる堆積層があるほか、柱穴状遺構、火葬址を含む土坑、溝状遺構が確認されている。出土遺物としては小皿や鉢等のかわりが多くを占めている。

考古学的知見からみた切通しの姿

名越切通しの発掘調査の結果をもとにした考古学的知見からみた切通しの姿は、これまで一般化されている説を覆す点もいくつか含まれるものであった。

名越切通しは、鎌倉七口の中でも古都鎌倉の周縁の歴史的景観を保ちつつ切岸・やぐら等の史跡も数多く、一般的な「切通しらしい」姿を多く残している。特に、南側の亀が岡団地口より入ってすぐに位置する第一切通しの姿は、まさに当時の鎌倉幕府が道幅を狭くして、敵を上から弓矢で攻撃するための防御施設として、これまでに広く紹介されてきた。

しかし発掘調査によると、現在の第一切通しの地表面から60cmの深さには、少なくとも4回の道路補修の跡が確認されている。そして、最下層の岩盤付近からは18世紀後半以降に作られた焼物の破片が出土したことから、現在のルートは古くても江戸時代のものだと判断されている。また、約90cmの狭い道幅の部分は、江戸時代には270cm以上はあったが、大地震等により崖が崩落して埋まり、その都度復旧を施した結果、現在の形になったと考えられている。つまり考古学的知見からすると、鎌倉幕府が切通しを整備する際に道幅を狭くして防御機能を施したのとは違った見解がなされた。さらに、第一切通し手前の北東側の約5m高い所で15世紀以前と判断される幅1m未満の道路遺構や、第一切通しの岩壁上約8mの部分に「やぐら」が存在したことが確認されている。このことより、鎌倉時代当初の道は、第

一切通し手前の現道より約5m高いところから、比較的急な勾配を経て、第一切通し付近では現道より約8m高いルートであったと推測できる。

名越第三切通し中央部には、切通しの防御施設と思われる岩が埋め込まれているが、岩の表面に「やぐら」の痕跡が伺えることから、人為的に配置されたものではなく、地震等で自然に崩れた岩が残ったものと考えられる。また、大切岸からは一定サイズの石材を切り出した跡があり、鎌倉市街の建築や土木の基礎に多く使用されているサイズと同じことから、石材の需要を満たすための大規模な石切場として使われていたというのが真相らしい。

今なお謎多き鎌倉古道切通し

寺社仏閣をはじめとした歴史的遺産が今も数多く残る鎌倉において、切通しはメジャーなものとは言いがたい。しかし、鎌倉時代より現在に至るまで少しずつその姿を変えながら存在し続けてきた切通しには、歴史的な魅力から近隣住民はもとより遠方の愛好家にも親しまれている。現在の切通しの姿は、そのほとんどが鎌倉時代のものとは様変わりしているが、訪れる人々に多くのロマンを与えてくれる。

鎌倉の切通しには未だ推測の域を脱しきれない謎の部分が多い。鎌倉における歴史的資産のひとつでもある切通しの研究が今後も進められ、新たな発見により、切通しの魅力が広く認識されることを願っている。



図2 名越切通し全体図

- <参考資料>
- 1) 『鎌倉の橋と路』大西清治 かまくら春秋社
 - 2) 『政子・頼朝の鎌倉歴史散歩』二橋進 徳間書店
 - 3) 『「古都鎌倉」を取り巻く山核部の調査』神奈川県教育委員会/鎌倉市教育委員会/財)かながわ考古学財団 2001年
 - 4) 『史跡 名越切通 確認調査報告書』逗子市教育委員会 2004年
 - 5) 『神奈川県逗子市 埋蔵文化財緊急調査報告書5』逗子市教育委員会 2007年
 - 6) 『史跡 名越切通 整備事業に伴う発掘調査報告書』逗子市教育委員会 2012年
 - 7) 平成24年臨時公開資料『国指定史跡 名越切通』逗子市教育委員会
 - 8) パンフレット『名越切通』逗子市教育委員会 2016年
 - 9) 『かまくら』大森全五郎 村田書店

- <取材協力>
- 1) 逗子市教育委員会

- <図・写真提供>
- 図1 参考資料9 図2 参考資料8
P44上、写真5 高橋真弓 写真1、2、7 水野寿行 写真3 塚本敏行
写真4 参考資料3 写真6 谷口史記



写真6 名越第一切通しの「やぐら」の跡



写真7 置石に残された「やぐら」の跡